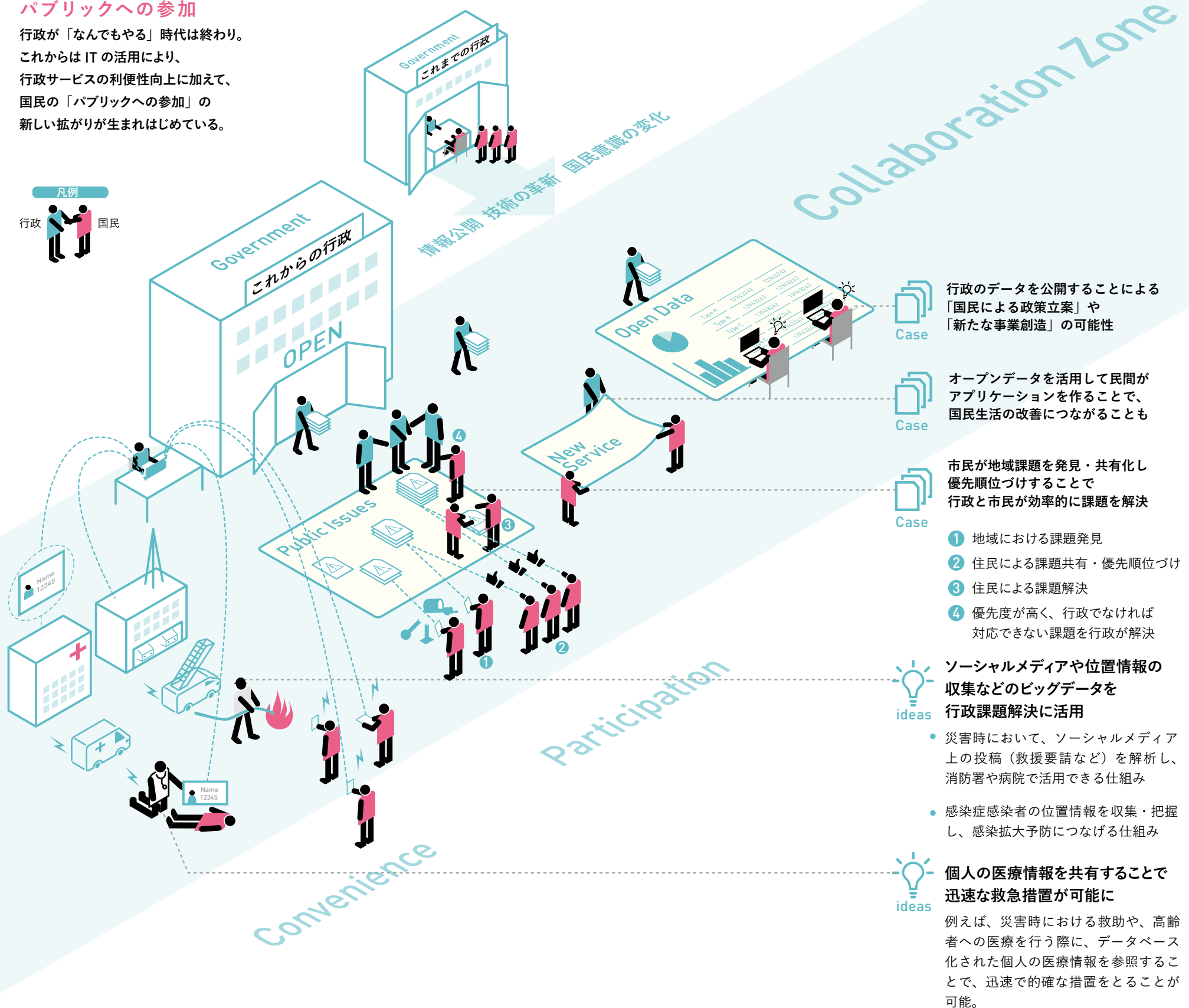


IT による参加と利便性の可能性

自分たちの国を自分たちが住みやすくするための IT とは

IT による利便性の向上と
パブリックへの参加

行政が「なんでもやる」時代は終わり。
これからは IT の活用により、
行政サービスの利便性向上に加えて、
国民の「パブリックへの参加」の
新しい拡がり生まれは始めている。



行政に残された課題とは？

Trial and Error

「永遠のβ版」文化は適応可能か
ウェブの世界に求められるのは、スピードとトライ&エラー。一方、行政はスピードよりも完成度を求められがち。

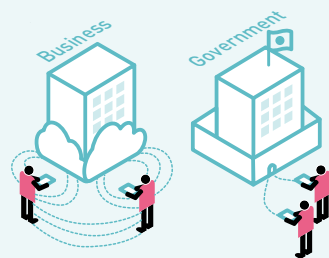
行政がそのような手法を導入することは許されるだろうか。



Risk or Convenience

利便性とリスクのトレードオフ
WEB サービスにおけるプライバシーの公開・非公開は、利便性とリスクを考慮して自己判断する時代に。

このような個人情報の扱いは行政にも適応できるだろうか。



Purpose and Means

手段の1つとしてのIT
行政において比重の高い対人サービスすべてをITに置き換えることはできない。

ITの導入を目的とするのではなく、課題解決の手段として認識できているだろうか。



IT Literacy

行政×ITのための人材育成
IT担当局が政策を担っていないことやITに興味のない幹部がいる場合がある。

IT技術力と課題解決型思考の双方持ち合わせた人材を育成する必要があるのではないだろうか。

